



④



①緻密に作り込まれたパンフラワー作品
②著名な能役者も使用する能面
③細部まで描きこまれた一閑張作品
④市内の陶芸作家が作る大皿などの力作も並ぶ
⑤仏像や生き物を彫りこんだ作品も多数展示

●問	栗原文化会館
●入場料	23(2) 1234 無料
●日時	11日(日) 午前10時~午後5時 ※最終日は午後4時まで
●場所	栗原文化会館 市内を拠点に活動する工芸作家10人の作品
●内容	展示

取材から見えてきた栗原市工芸展の姿。それは、使う人のこらではのものであった。栗原の物事から着想を得た「作品」。そして、使う人のことをイメージしながら、日々ひた向きに技術を磨く「作り手たち」。さらには、その作り手たちと直接交流し、作品作りの雰囲気でも楽しもうとする「ファン」ともいべき存在。この三つが会場で織りなす空間は、まさに栗原の香りがする工芸展と言える。今年も栗原市工芸展が8月に開催される。今回は昨年より1人多い10人の作り手の作品が並び、細かな模様を彫り

込んだひょうたんランプなども新たに展示される。扇を抜けたその先で、今年も作品と作り手が皆さんのが場を待っている。

扇の先に見えたもの

これまで10年以上にわたり、栗原市工芸展に足を運んできた栗原さん。「この工芸展は、作品作りの雰囲気まで伝わる」と話します。栗原市工芸展の魅力を伺いました。

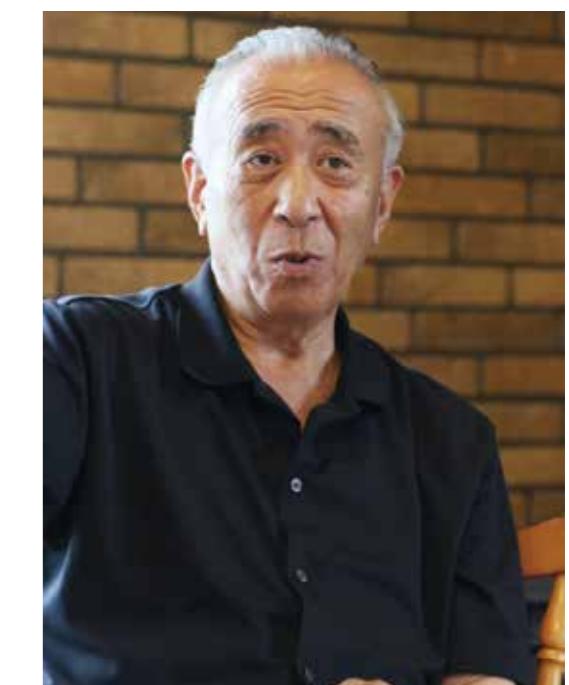
作り手の息遣いを知り楽しむ

栗原市工芸展は、市内の物事から着想したと感じさせる作品もあり、まさに栗原らしさが見どころが多く、栗原の香りがする作品ばかりです。私は、この点が他の展示会と明らかに違うと思っています。

さうには、展示されている作品は全て栗原市内の作り手によるもの。会場には、その作り手がいて、来場した人たちに交代で作品の案内をするなど、作り手と来場者の距離が近いことも、魅力の一つだと思います。例えば、県内や他県にある美術館を想像してみてください。普通は、作り手はその場にはいません。そのため、作品の解説を読んで、その作品のことを知るのが当たり前の光景です。しかし、この工芸展は違います。作り手に直接作品に関する質問をするなど、作品作りの様子や思いなどを聞くことができ、作品作りの雰囲気まで伝わるものが、本当に良いですね。



⑪



くりはら とおる
栗原 徹さん(若柳大袋)



②



③